

市内の松岡中で十五日、地図をテーマにした一年生の社会科の授業があり、赤水図が登場した。

まず、担当の渡辺浩実教諭（55）が黒板に地球を図示し、緯度と経度で世界の位置を正確に表すことができるとし、本初子午線（ほんしょしごせん）や赤道について説明した。

次第に話題は世界から日本に絞られ、「では、日本の地図はいつ作られたと思うか」と生徒たちに問いかけると、数人から「三百年前」と返答があった。

そこで渡辺教諭は、地図帳を開くように指示。「日本の地図で有名なのは誰？」と問うと、「伊能忠敬」と生徒が答えた。日本地図の変遷を説明したページには伊能忠敬の地図の隣に「赤水図」が並ぶ。渡辺教諭は「赤水は旅人から情報を得ながら地図を作ったと伝えられている。歴史的に価値がある」と説いた。

